

---

# ガラスの翼

大華

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ガラスの翼

### 【NZコード】

NZ352D

### 【作者名】

大華

### 【あらすじ】

夜の世界「水商売」に飛び込んだ!! 遅咲きアユー・カズとの出会いで運命が・・・

## 第一章 平凡

私の名前は「ayu」

職業「ホステス」

毎日を ただ 淡々とやり過ごし、平凡な日々を送っていた。

そんな私の人生が、ある男性との出会いで大きく変わつて行つた。

彼の名前は「kanu」。職業・・・「極道?」

彼の過去には「震災」と言つ恐ろしい出来事がつきまとつていた。

心に傷を背負い、闇からの出口を見つけられずにいた「kanu」・

これは、お互いを必要としていた、あの頃の私達の物語・・・

【ガラスの翼・・・出会い・・・】

それは、偶然の出来事から始まつた・・・

「アユさん」

スタッフの声が・・・

「新規のお客様なんですが、よろしいですか?」

「うん いいよお～」

私はすぐに席に向かつた。

「初めまして アコです」

新規のお客様に対して、最高の笑顔で挨拶をする私。

それに対しても彼は、少し微笑んだようにも見えたけど無表情・・・

「ふう～・・・」心の中でため息をついた。

「こりゃあ一人じゃきついなあ～・・・よし～！」

「他の女の子も呼びますね」

そう言い終えて、他の子を呼ぼうとした瞬間

「呼ばなくていよいよ～！」

えつ？？なに、この人？？？

「はあああ～・・・」心の中でまた大きなため息・・・

そして彼が次に言った一言

「お前だけでいいから」

えつ？？？ お前だけでいいって・・・

意味わかんないんだけど?????

なんだかすごく難しそうだなあ。この人・・・

頭の中の弓を出しを探し回つて、やがて口に出た言葉が

「お前お聴きしてもいいですか？」

• • • • • • • • •

無言の返事が返ってきた。・。・。

そ、う、へ、る、か、あ、！、よ、ー、つ、し、！

一  
・  
・  
・  
力ズ

ボソつと彼が一言。

何だか調子くるつなあ・・・

「カズさんって呼びますねっ」

「ええと・・・」

何とか会話を続けて盛り上げなくちゃ――!

「あつ！関西の方なんですねえ！お仕事で来てるんですか？」

しまつたあー！…すゞぐベタな返しだあ～

あああ引け出し足りない！私のバカあー！！！！！

そんな私に對して、彼は

「あのさあ、何も言わなくていいから、俺を見て飲んでくれないか！  
話がしたい時は俺から話すから」

擊沈・・・・・・・・

「はい・・

分かりました。でも私がダメなら他の女の子を・・

と言いかけた私に

「いや、俺はお前がいい！

お前がイヤなら別にいいけど・・・」

「私は構いませんよ」

笑顔で答えたけど私の本気スイッチはちょっと切れかかっていた。

びづいたらいいんだわ・・・

ん・・・ますます難しいぞお「カズさん」。

しばらく沈黙が続いた・・・

「どうよ、この空気・・・

はあ～～。

すると！彼が突然

「このタバコ置いてる？」

差し出した銘柄は珍しいものでお店には置いていなかつたのですが

なんと！そのタバコは偶然にも私と同じ銘柄！！

その瞬間…ぎこちない空気が一変。

こんな偶然もあるんだあ・・・

よかつたあ、このタバコ吸つてて！

私は心の中で、この偶然に感謝した。

「ありますよ。これですよね」

私はすぐにタバコケースから取り出し

「私のですが、いいですか？」

と言つて渡した。

「おお！初めてだよ、このタバコ吸つてる人と逢つのは」

それを聞いて、私のテンションはグイグイ上がり

「そうでしょうー。」

「私も同じタバコを吸つてる方と逢つるのは初めてー！」

よかつたああ。

神様 ありがとう

やつと笑つてくれた彼を見て、ほつとすると同時に嬉しさがこみあげてきた。

「あー————。」

「よしつ—終わりやつ！！」と・・・

ええ・・・！？何、突然？終わりつて！？

なになに？もう帰るつてこと？私何か気にさわったことじゅうたかなあ・・・？

でも、さつき笑つてくれたし・・・

そんな私の不安は、次の一句でかき消された。

「自分、アコつて言うんやなあ。もう硬い話し方は終わりやー！（さん）もいらん！カズでいい！」

そして彼は、今までとは別人のように話し始めた。

「今日は色々ありすぎて、頭切り替えるのに時間がかかりそうやつたけど、アコと出会えてすっかり切り替えができたよ」

今まで難しそうな顔をしていた彼が笑顔になつたのを見て私も今までの不安が消え去り

「カズさんー女の子呼んで楽しく飲みましょー！」と切り出した。

すると、さつそく彼の突っ込みが入った！

「だから（せん）いらんしーーそれと・・・アコだけでいいーー！」

あれれ・・・そなんだあ。。。

「じゃあ2人で楽しく飲みましょう」

もう大丈夫！私の不安は完全になくなつていた。

よおーしーーの調子で頑張るぞーー！

そんないつもの調子が戻ってきた矢先に・・・

「アコさん」・・・スタッフの声。

タイミング悪すぎーーー！

他のお客様が来たのだとすぐに分かった。

スタッフが耳打ちで話だと彼は、一気にお酒を飲み干し席を立つた。

驚いた表情で彼を見た私に

「今日は楽しかったよ。俺帰るから早く行って来いよ」

全ての状況を把握し、私に気を遣つてくれたのだった。

「そんなんあせつかくこれからなにこ・・・すぐに戻りますから、待つてて・・・」

「いいよ帰るから気にするなよつ

彼は、今田最高の笑顔で言つた。

「・・・分かりました」

急に寂しさがこみ上げてきて

彼ともつと話したいな・・・

他の席行きたくないな・・・

そんな気持ちになってしまった。

この不思議いっぽいの「カズ」にすっかりペースを乱されいつの間にか「カズワールド」にハマッテしまっていたのだった。

お店の外まで彼を送り出し

「今日は、どうしてお帰りなんですか?」と問い合わせてみた。

「こつものホテルだよ あはは」

いつものホテルって・・・冗談交じりの彼の言葉に

「分かんないよつ w」と軽くすねて見せた。

「だねつ

「だねつ

あ～あ～もう来てくれないなあ

今までの経験上、私はそう思った。

そんな私の思いとは裏腹に

「アコー! また来るから電話番号教えておくよー。」

そう言つと、彼がポケットから携帯を取りだした。

「ああー！その携帯アゴのと同じだよー。色もーー。」

「そつかあ偶然が2回続いたかあーもしかして、3回田もあるかな  
あー

「はいっ あると思いますよーー。」

私は嬉しくて 少し興奮気味に答えた。

彼を乗せたタクシーが走り出し、その姿が見えなくなるまで見送つ  
ていた。

きっと また逢えると思いながら・・・

これが、私と彼との出会いだった。

私は、『ぐぐぐ』普通の高校生活を送ってきた。

友達もそれなりにいた。眞面目な子もいれば、そうでない子もいた。  
でもどちらに染まる事もなかつた。

悪い事に対する色々な知識はあつたけど、何もしなかつた。・・・  
つていうか出来なかつた。

頭でつかちなだけで、そんな勇気なんてなかつたし  
バカらしいと、大人ぶっていたのもしれない・・・

将来の夢や目標もなく、やりたいことを見つけられないまま、ただ  
ただ時間だけが流れてしまったように思つ・・・

その結果、先の事を真剣に考える事もなく、卒業を迎えてしまった。

「なんとなく生きていけたらいいやあ～」

自分に言い訳するように、最後の教室を振り返りしぶやいたのを覚えている。

卒業しても、やっぱりやりたい事は見つからなかつた。

ただ・・・お金は欲しかつた。

時給のいいバイトとなると・・・

やっぱり、イベントコンパニオンや水商売！

幸い！私の容姿は、それほど悪くはなかつた。

女を武器にする仕事は、やっぱり一番いいお金になる。

イベントコスチュームを着て、笑顔で手を振つていれば、それなりのお金が貰えた。

お母さんが見たら泣くだらうなあ・・・

そんなバイトをしながら毎日遊びまくつていた。

そして、二十歳になつた頃、友達に誘われ水商売の道に足を踏み入れた。

夜の街！六本木での「クラブホステス」・・・

まず最初に、想像していた世界とは全く違っていた事に驚いた！

すげー上品で綺麗な女子ばかりの世界！！

頭の回転は速いし、どんな会話にも対応できる知識レベルの高さ！

やばい・・・私ついていけない・・・

ああ～毎日TVのニュースくらいしか観てないよ～  
新聞くらいはちゃんと読んでおけばよかつた・・・

ホステスなんて、適当に笑つてお酒作つてたらいいんだ！  
などと簡単に考えていた自分が恥ずかしくなった。

そこで最初に出会つた、夜の世界のお姉さん

彼女の名前は「トモリ」

私の仕事は、ヘルプといつてトップクラスの女の子のサブ。  
簡単に言つと「お手伝い？」から始まつた。

その時から私は「アゴ」と名前をつけて日々、勉強と驚きの毎日を過ごしていた。

私は「アゴちゃん」のヘルプをしながら色々な事を学んだ。

私がヘルプをしていた「トモリちゃん」はお店で人気 NO.1 ホステス！！！

トモミさんには、会いに来るお客様は、一流企業の社長さんや芸能関係の人など、とにかくすごい人ばかり。

どのお客様に対しても、なんなくこなしありやつ素敵なお女性で、プライベートでもよく面倒を見ててくれて、実のお姉さんのような存在だった。

初めてこんな女性になりたいと憧れた女性。

そんなトモミさんにいつも甘えてしまっていた。

彼女がお店を辞めるまでは・・・

## 第一章 妄想

そして今の私は、忙しく時間に奪われる日々を過いでいる。

ふとした瞬間に

「自分の時間が欲しい・・・」

とため息混じりの言葉がでてしまつ。

そんな中で、今の楽しみは、

カズ・・・来てくれないかなあ・・・と願つ」とー！

逢いたい・・・

電話・・・

なぜ出来ないんだろ？他のお客様だったら出来るのに・・・

彼は今、何処で何をしているんだろ？・・・

私の中で彼の存在が日増しに大きくなつていった。

何処の誰かも、職業も分からぬのに、勝手に自分の頭の中で妄想して楽しんだり・・・

恋でもしちゃつたかな？私・・・？

そして今日も、いつものよつて変身。

完璧な夜の女「アユ」が出来上がった。

お店がにぎわい始めた頃、見慣れた人影をみつけ

「あつーお久しぶりです 」

それは、トモミさん一押しだったお客様。

「谷川」だった。

「アユー！俺、海外にいたからしばらく来れなかつたんだよ。しばらく見ないうちに綺麗になつたね」

「そうですかあ～。嬉しいな 嫌われてしまつたかなあつて心配してたんですよ」

「あはは。大丈夫だよ。アユもトモミも俺にとつては大切な女性だからね」

こんなキザなセリフを、谷川は平氣で言つのだ。

「相変わらず、紳士ですねえ」

すると、谷川は思い出したよう

「そうだー！アユ 変な奴來なかつたか？」

と私に聞いてきた。

ん？・・変なヤツ？？？

「来てないですよ。どうしてですか？」

「俺の悪友がさあ 東京に来てて、どこかいい店知らないか？って、いきなり国際電話してきたんだよー。」

「まあ、そんな、奴なんだけどね。でー、アコしかいないと思つて紹介したんだ。」

「やうなんだあ。 ありがとウイーウェームす」

谷川の心遣いに感謝した

でも・・・

「誰だか思い当たらないなあ～？」

「わつかーでも、楽しんで来たつて言ってたよ」

「やうやく、アコが同じタバコ吸つてゐつて、嬉しそうに話してた

ええええええええー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！

嘘？・・・もしかして、もしかしなくてもー・

カズ！－

一瞬にして時間が止まつた！

「どうしたアゴー！」 フリーーズ状態の私を見て

「おこおこ聞いてるのか？」

と心配で、谷川が私の顔を覗き込んできた。

「あっ・・・」めんなさい

私は慌てて体を再起動させた。

「カズさんって言つ方ですか？」

「そうそうカズだよ。変な奴だつただろう。昔からの悪友なんだよ！週末は東京にいるから今度、一緒に来るよ」

「うそ――――こんな事つてあるんだあ

「はい。。お待ちします」

やつたああ 　またまた、神様に感謝

彼に逢えるかもーと思つと嬉しくてたまらなかつた。

・ 　　だつて、勝手な妄想をするくらい、彼の事ばかり考えていたのだから・

「そうでしたか、お知り合いだったんですね。何も言わなかつたし、少しの時間だつたので・・・」

「あはは。奴はそんな感じなんだよ。何処行つてもな。だからアコを選んだ。変な奴だが宜しく頼むね」

谷川の言葉に、私は笑顔で微笑んだ。

「ところであー！アイツ何してるヤツだと思つ？？」

キタツ！…キタツ！…キタツ！…その質問！…

「そうですねえ。大手企業の営業とかですか？」

私の妄想の中で作り上げたイメージを言つてみた。

「おお営業かあ。あははーそれはいいねw」

谷川は楽しそうに笑つた。

「違いました？」

「そうだねハズレ」

あらら・・・違つたか・・・私の妄想パズルが崩壊した。

「直接聞いていらっしゃる。今から電話するから」

そういうと、谷川は携帯で電話をかけ始めた。

ええっ！！

ちょっと待つて！ヤバイ！心の準備が！

ああ！心臓痛いよお～！！

「もしもし俺・・・今、飲んでるんだ。ちょっと待ってな、素敵な人に変わるから」

「はい、アコ聞いてるわ」

といきなり携帯を渡された。

- もじじめ

声が震えなじゆくに精一杯 平静を裝つた

「バ——です：：：覚えてレバ：：：」  
「ヤ しあずか？」

「無言」

しばりへじてから

「ああ・・・分かるよ」

聞こえた。ある声が覚えた。

カズの声だああ

「酔っ払いに電話をせられたんやアー。」めんな  
ていいからな  
楽しさせてやつて！」

「じゃあな・・・」

「プ・プ・プ・」

そのまま電話は切れてしまつた・・・

「どうした？聞かなかつたのか？」

「えつと・・・切られてしまつましたあ

「あはは。そつかあ、らしいなあ～変な奴なんだよ」

ホント！変なヤツ！

だけど・・・そんな変なヤツが頭から離れない。

なんか変な感じ・・・

完全に仕事モードを忘れてる私。

今日はホステス失格だ・・・

次の日、いつもより早く目が覚めてしまった。  
はあ～～。昨日の自分に反省・・・

頭を切り換えて頑張らなくちゃ！

私は、窓を開けて大きく伸びをしながら

「週末だあ。頑張れアコ～」

と声に出して自分に渴をいた。

でも次の瞬間・・・

・・・・・ん？？週末・・・・・・・・・・

週末！～！～！

彼が東京に来てる！～！～！～！～！

そう思うと不思議とテンションが上がった

自分で思う・・・私つて単純

でも、逢えるとも限らないし、逢えたとしても・・・何を話せばいいんだろう？

頭の中で、グルグル考えを巡らせた。

他のお客様の時と同じように、話せばいいじやん！

でも・・・出来るの？

あああ～！～！わからんない！～！

何度もとなく、心の葛藤を繰り返した。

そして・・・さつきの反省の意味ないじやん！

と軽く葛藤の中にシシ「ノミ」を混せてみた。

お店は、いつもの週末のにぎわいを見せ

忙しい！～その一言に泣きた。

あつといつ間に時間が過ぎて行き私は、全開集中モードだった。

そして、最後のお客様とお店をでた。

「ありがとうございました。またいらして下さいね」

完璧な営業スマイルwww

「終わったあ。ふう～忙しかった・・・」

とため息混じりにつぶやた時ふと街並みを見回して・・・  
何故かいつも見慣れてるはずなのにこの街はいつ眠るんだろ？  
と素朴な疑問が浮かんだ。

こんな時間なのに人だらけだし、酔っぱらいばかり・・・

ケンカ族も多いし！ホント！忙しい街だなあ。

そんな事を思いながら店に戻ろうとした時、近くで

「じゃかましい！！」

と怒鳴り声が聞こえ、それと同時に

「ガツシャーン！！」

とガラスが割れたような音が派手に聞こえてきた。

なになに？？ケンカだあ！！

珍しくもないけど、ド派手だぞお！しかも、黒人さんだし・・・怖  
そう。

相手の人、かわいそうだなあ・・・と恐る恐る見る  
と血だけ・・・

ヤダ！誰か止めてあげたらいいのに・・・

でも、誰も止めない・・・見て見ぬフリ・・・  
よく見ると、黒人さんもダウン寸前の様子で頭から血を流していた。  
・・

警察！警察に連絡しなくちゃ！

と思った矢先に、店から出てきたスタッフが

「警察に連絡したから大丈夫だよ」

と私に声をかけてきた。

よかつたあ。少しホッとした。

そしてまたケンカに目を向けると、血だらけだった相手の男が倒れ  
た黒人さんに  
名刺を投げつけていた！

「文句があればいつでも電話してこいーー！」

そう言って、そのまま車に乗り込み消えていった。

ちょっと待つて？？カズだあ！！なんで？？

私の知っているカズとは別人だつた！

カズつて・・・世界が違うのかも・・・

呆然として、全身の力が抜けてしまった。

我に帰った私は、急にカズの事が心配でたまなくなつた。怪我し  
てる・・・どうしたらいいの？？

不安でいっぱいのまま急いで電話をかけた。  
コールは鳴るもの・・・なかなか出ない・・・  
泣きそうな気持ちで携帯を耳に押し当てた。

「はいーー！」

少し機嫌の悪そうな声だった。

「あの・・・アコです」

精一杯声を振り絞った。

「はあ？なんやねん」

なんだか気の抜けた返事が返ってきた。

「あのお。『ごめんなさい。今ケンカしてましたよね』

そう切り出すと

・・・・・・・しばらぐ無言が続き

「アコビウしたん見てたんか？そつか店の近くやつたな。『ごめんな

「つうん、私は大丈夫。それよりかなり怪我してる  
でしょ？大丈夫なの？」

「そいやなあw。大丈夫ではないなあ。卑怯な手でなんとかなった  
けどなあ」

「卑怯な手つて・・・なに？」

「金属の棒があつたから、頭殴つたw」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

「やうじやなくて、かなり血が出てたでしょー大丈夫なの?」

「だから大丈夫じゃないってさつとき書いたやろ?」

心配する私を茶化すかのよう、カズの言葉は楽しそうだった。

「ビーンての? 今から行くから!」

「あははは いつものホテルに向かつてるよ!」

「ふざけないでよー! いつものって、わかる訳ないでしょー!」

「おーおい怖いなあ。部屋に着いたら連絡するよ。アコの番号ワンギリしどって!」

「ビーンのホテルなの? 教えてよー!」

「ひらひら、女の子のセリフにしては強引だな! 取りあえず後で連絡するから、じゃあな」

「ブ・ブ・ブ・」

そのまま電話は切た・・・・・・

何とも言えない複雑な気持ちの波に、今にも飲み込まれそうだった。

## 第三章 いつものホテル

私はお店に戻り連絡を待ちました。  
スタッフがアユさん帰らないのですか？

・・・うん

手には携帯握り締めていました

1時間待つた。限界アユから連絡しょ！  
電源切れてる・・・圈外なの・・・  
これ以上お店にもいられないし  
近くのBARに行こうと思い  
少し歩いてると電話が鳴りました！  
もしもし

カズ！ 遅いよ！ 大丈夫なの？

うん大丈夫だよ。手当してもらつてた  
そつかあ・・・「誰にだらづ」

もうお店終わりやろ

うん・・・「とっくに終わってるわよ」  
じゃあ、いまから帰り？

「我慢の限界でした」

あのさあ！ 心配して待つてたんだよ！

1時間以上も！！何もなかつたように話さないでよ  
どれだけ心配したか 分かつてるの！！

アユ 大丈夫か？ごめん心配かけて

すぐに連絡したかったけど、ホテルの人には  
手当してもらつてたから

アユ ごめんな

・・・うん 大丈夫だよ。  
ごめんなさい。

今からでも、よかつたら少し逢わないか？

うん デリのホテルいけばいい？

カズから聞いたホテルはすぐに分かつた。  
タクシ - に乗り何も考えずに向かつた  
ただ逢いたくて・・・

新宿にある高層ホテルに着くとカズがいた。  
タクシ - から降りてカズに駆け寄りました  
大丈夫？ 痛々しい顔になつてるよ

うん 実際に痛いし w

アユもつと酷いと思つてたよ  
血だらけに見えたし・・・

飲んでるから、よく血もでるんだよ w  
でも、すっかり止まつたよ w

心配かけて、ごめんな

うう・・ 考えればアユが勝手に心配してたし

そんなこと言ひなよ。 嬉しかったのに

こんな時間だから店開いてないんだ

ロビ - でもいいか？

・・・うん いいよ

カズに連れられエレベータに乗りました  
ロビ - は、40階です。

すごい！噂通りだあ

ごめんな 暗いやろ、照明も落としてるし  
でも外よりはマシやろ w

うん w 大丈夫だよ

「一人の声がやけに響く・・・」

ちつと待つてよ 飲み物くらい・・・

いいよ 座つてて 病人さん w

カズ何か飲みたいの？ どこかで買つてくるよ  
おいおい、買つてくるつて・・・

自販でかよ w w w

それも・・・そうだね w

フロントから人が近づいてきました  
カズを見て会釈しました

あっ！スタッフ用でいいから口 - ヒ - いいかな?  
はい。かしこまりました

ええ！- 涙いねカズ

だつて、いつもの・・・だからね。  
ん？カズがオ - ナ - さんなの？

アホかつ w そんな分けないやろ w  
常連さんで～すよ w

思わず吹き出した。こんなカズ見たの始めて w  
意外と・・かわいい w w w

「声に出来ないけど」

口・ヒ・運ばれてきました。

ええ！

スタッフ用？？

こんな素敵なカップ！

ありがと。無理言つたね  
いいえ。ごゆっくりどうぞ。

「おお かつこいこ 二人だあ」

ここでは自販NGだね w  
わたし恥ずかしいなあ

そんな事ないよ。アユに相応しいおもてなしida  
そつかなあ

そうだよ、ホテルマンも人を見ていいろいろ判断  
してるよ。

アユの仕事と同じだよ w

「はあ～ なんか・・・わたし子供みたいだ」

他愛のない話をしてました。

聞きたいことは他にありましたか・・  
でも、とても落ち着ける時間  
深夜のロビ・意外といい感じです  
あつという間に夜明け・・・

アユそろそろ帰らないと

・・・そうだね

俺 夜明け苦手なんだ

部屋なんか力・テン閉めてるし w  
そななんだあ どうして?

ん・・・どうしてかな分からいな

さあー行こう 下まで送るよ

あつ・・・はい「話切られた」

カズはタクシ・に乗ったわたしを見送つてくれた。  
見えなくなるまで、ずっと見ててくれた。

なぜロビ・なの? 部屋に行きたかったと思つてました。カズにとつ  
て・・・わたしつて?  
わたしにとつてカズは・・・

カズを知りたい・・・怖いけど・・・

日曜日・・・お仕事休みだあ  
いつもなら、ゴロゴロしてる時間  
でも、カズが東京にいると思うと  
ふふ なぜか嬉しくて微笑みが・・・

ロビ・でのデ・ト? w

少しカズが分かつたような

私の妄想は、崩れただけど w

電話するかつ!

ん・・・携帯と格闘中

お客様と付き合つた事がない！

トモさんにも、よく言いわれてました。

「恋愛はダメ！…」

だよね・・・でも…！

逢いたい♪♪

携帯くん・・・私どうじょつ

答えてくれないよね。。

はあ～

お風呂で考えよ～う。。

ふう・田が覚めたあ  
ん！！

光つてる！ 携帯！…！

着信あり！

ん？ 知らない番号？  
なあ～んだ・・・テンション下がるなあ

髪 かわかそう

・・・・・

気になるぞお 番号・・・

かけてみよつ

プルプル～

お電話ありがと～いぢやこます。

ええ！…！

カズの泊まってるホテルだあ

プチッ・・・プ・プ・プ・  
なぜ切つたの私・・・「動搖」  
切らなくてよかつたのに・・・

よし！決めたあ カズに電話を

プルプルプル

はい

あっ カズ私だけど、分かる

アユなんだよ いきなりクイズみたいw

そうだねw 「嬉しい」

電話・・・ホテルからしてくれたあ

うん 今日お店休みだろ

逢いたいけど時間ある？

うん。 。あるある！

じゃあ、夕食でもどう？

うん。 大丈夫だよ

ホテルに来てくれるか、予約しどくから  
7時にロビ - で待ってるよ

はいw

じゃあ、後でな

うん 楽しみに・・・

切れてるし・・・プ・プ・プ・

いつも、Jのパタ・ンで切られてもやあ

クロ・ゼット開いて格闘中です  
お店に着ていく洋服はNGだなあ  
ん・・・・・

こんな時間が楽しかつたりするんですね。  
普段よりマイク控えめにします

少し早いけど、出かけよつ  
早く着きすぎ　ｗｗｗｗ

ホテル前に公園があるので散歩をする事に  
気持ちを落ち着かすのによかったです。

時間になりロビ・に向かいました。

おおーー昨日とは違つ感じですー！

素敵なロビ・に「感動」

カズがいたつ！

このホテルには不似合いな服装でした  
破れたジ・ンズにスニ・カ・

よつー・アコ

見違えたよ　お店のアコより素敵だよ  
そうかなあ　照れるよ

うん俺は今夜のアコがいいな

ありがとう w

カズに連れられお店の中へと

入り口に・・・スニーカーNG書いてるし！

誰もなにも言わない・・・

カズつて不思議キャラだです

個室だ！夜景が最高に綺麗！

失礼します

支配人らしき人が入ってきました  
やつぱり・・・服装のことで・・・

よつこそ お待ちしております。

いつものワインでよろしいでしょうか？

うん いいよ コースもお任せで！

いいよね？ アコ？

はい。

私が・・・場違いなようです・・・



## 第四章 スイート

夜景を見ながらカズと食事中。

派手な仕事してるけど、意外と高級に弱いw  
同伴、アフタ - と高級店に行きますが  
いまだに、高級には・・・慣れないのです・・・

カズが問いかけます。

俺つていくつに見えてるの?  
確かに年齢の事は考えた事なかったです。

ん・・・25くらいかな?  
25かあ・・・30だよ  
ほんとに! 見えないね w  
でも、頭の中は10代だよ w  
それはアユも同じ w

ねえねえカズつて関西だよね?  
そうだよ。

言葉が関西弁になつたり標準語  
になつたりするよね。  
そなんだよ! 週の半分行つたり来たりだから  
どこの人状態になつてるよ w

アユは、ずっと東京なのか?  
そうだよ。

カズつて・・・何してる人？

ついに、聞いてしまった「ドキドキ」

職業ですか、お嬢様 w

そうだね、自分でも分からんんだあ  
何でも屋かな・・・  
もう！真面目に答えてよ！  
真面目だよ w いろいろしてるから  
説明しにくいなあ  
教えてくれないの？

簡単に言うと・・・  
投資屋 みたいな・・・  
まあ これくらいで許して w  
・・・わかつたあ  
面接に来てるみたいだぞアユ w  
そうだね w だつてね、不思議が多いから  
聞いてみたくなるんだよ

こんな高級ホテルでの食事なのに  
まったく気取らず いい感じです。

ますます引き込まれて行くカズに・・・

食事が終わりました。

少し沈黙

・・・・・

アユ 彼氏いるのか?

・・・ いないよ

営業するなよ

してないよへへ

本当だよ。いませんよ

そつか、分かつた

・・・ カズは?

「聞いてしまつたあ」

・・・・・ 「心臓痛い」

いなかつたけど・・・

今はいるよ!

ドキッ！！ 「心臓痛い」

やつぱり、いるよね・・・

そなんだあ いいよね彼女さん

それは、本人に聞かないと分からぬけどね

どう?

ん?

なになに？意味分かんないよカズ！

俺の彼女に聞いてるんだが・・・  
目の前にいるアユにだよ。

ええ?

いきなり口説くのは、あかんなあ  
ごめん ごめん www

固まつた・・・わ・た・し

まあ 彼氏いないのならOK!

この後、どうする?  
時間とか予定とかは?  
頭がついていかない・・・  
カズのペ・ス!!  
でも でも 口説かれたの  
からかわれたの  
クルクル回ってる・・・

どうした!怒ったのか アユ?  
大丈夫だよ。心配しないでwww  
何もないよアユは・・・  
そつか ジャあ部屋に招待してもいいか?  
・・・

・・・はい

カズの後をついて行きました

考えればまだ・・・2・3回田だよ

カズに逢うのは・・・

部屋に行く・・・

軽い女と思われる・・・

考へても・・・

引き返す勇氣ないし・・・

安心できる人・・・

安心つてなに?

こんな事を思いながらも心は穏やかでした。

エレベータに乗り50階・・・

一段と夜景が綺麗です!

部屋の前にいた・・・

緊張MAX状態・・・

広い扉が開いた・・・

どうぞアコ

・・・はい おじゃまします

いいひて・・・

ホテルの部屋・・・

広い！！いきなりグランド・ピアノ！！

ここでカズ一人で泊まってるの？

うん 無駄に広いよな w

迷子になりそうだね。

あはは w 僕も始めはそんな感じだつたよ。

カ - テン開けようか・・・

ここからの夜景は、最高なんだよ

カズがスイッチを押しました

自動でいろんな所のカ - テンが開きます。

うわあ～ 素敵！！

だろ w

うん。吸い込まれそう 夜景に。。

気に入つた？

うん 最高に綺麗 アユ感動だよ

よかつた 招待して

本当に夜景が綺麗 素敵な部屋

好きなところに座つてよ

うん。

キヨロキヨロ・・・

部屋の探検していいよ w

アユって意外と面白い子やな

だつても 感動するよ

こんな部屋来れないもの。

そうやなあ 確かに来れないかもな

俺も、そう思いながらいつも来るよ

いつもって・・・?

そう いつものホテル&部屋だよ。

週末は、この部屋にいるよ

ええ！すいなあ～

いいなあ～

アユならば、いつでも歓迎するよ

ほんとに。

だが週末以外は、知らない人がいるよ

あは～そうだよね。

東京の夜景が360度見れる部屋

ねえ。下のほう見て！

あんなに小さいよ車とか

そつかあ 僕は遠慮するよ

高い所は・・・苦手やし

そうなの～ 意外だあ～

アユ ピアノ弾ける？

少しならね

よし！弾いてよ俺聞きたいから

ほんとに少しだよ・・・

いいよ この部屋でピアノ聞いてみたかった！

カズ弾かないの？

弾けないよ俺は・・・

私は、弾き始めました。意外と緊張しませんでした。

ふと カズを見ると微笑んでます

とても優しい顔して・・・カズ

ねえカズ・・・

いつ帰るの？

今日だよ！明日は月曜日だし

ええ！！今日つて・・・

こんな時間だよ？

飛行機は、間に合わないな

新幹線なら・・・どうかな？

じゃあ、こんなゆっくりしてたら・・・

そうなんだけど、いいよ！

明日にするかあ！

お仕事大丈夫なの？

さあ？・・・どうやろw

・・・「不思議キャラモード」

いいよアコは気にしないで

アコの時間許す限りOKだよ。

いいのかなあ

うん いいよ

いてほしい

・・・「嬉しい」

## 第五章 週末

広い部屋でふたりです。

いろいろ話が出来ました。

血液型や誕生日など

こんな事さえ知らなかつた・・・

不思議だね何も知らない二人が  
ホテルの部屋で話してゐるつて  
こんなのもいいかもつて俺は  
思つてゐるが・・・

アユは大丈夫か？

うん。大丈夫だよ

こんな経験始めてだけどねw

俺もだよ 信じてくれるかな? w

うん アユも始めてだからね

OKお互いに始めての経験やな w

カズつてね

アコの行動や「伝えたい」ことを  
分かつてるみたい・・・

そうなのか？

うん。 言いたいこと先に言われるよ

偶然やろ何も考えて話してないよ

アコとは自然に話せるからね

アコもだよ。

自然に話せるし、ずっと前から  
知り合いみたい。

俺も感じるよ それは・・・

意外と、兄妹だったりしてな

・・・・・ 「兄妹って」

やはり・・・

女として・・・

見てないの・・・

少し切なくなりました。

そうだ！アユ  
海とか好きか？

好きだよ サ・フィンとかするんだよー

まじで！！

うん。すごく好きだよ  
結構乗れたりするよ。

そりなんやー

3回きたねw

偶然の3回だよ

俺も、中学からしてるんだよ

ええ、すじいね！

今度一緒に行こうか！！

うん。行きたい

3回あつたよね。

あつたな！

カズの田が時計に・・・

ちゅうじや田が変わったへりこです。

アゴビツある？

ビツがあるって・・・

朝まで一緒にいたい・・・

「言えなかつたけど」

また、いつでも逢えるから

今日はバイバイするか？

アコも明日お店だし、お肌に悪いやう

じやあ、今まで送るよ

う・・・う

「何も言えなこよ・・・

部屋を後にしてHレベ・タ・ヘ

ローブ - につきむつ - 一度エレベ - タ - ハ

この迷路のようなホテルに感謝です。  
少しでも戻くいれる。。

ああ～ついた・・・

ドアが開きました。

カズの手がアユの腰に・・・

始めて触れた・・・

カズに・・・

手の温もりが私の心に伝わります

幸せな時間・・・

タクシ - が見えてきた・・・

帰りたくない!!

びひじょひ・・・私

泣きそり・・・

カズの手が放れました・・・

カズはペンドントを外してます。

アユこれ持つててくれないか

俺がサ・フィンする時のお守りなんだ

そつと、アユの首に付けてくれます。  
クジラのシッポがついて可愛い。

うん。ずっとつけてるね。。

「ホツと出来きました」

今までカズについてた温もりも一緒に

私は、タクシ・に乗り込み

・・・おやすみなさい

うん おやすみ また来週ね。

うん・・・

走り出した車の中で・・・

涙がこぼれた・・・

ペンダント握り締めて、カズが見えなくなるまでカズのいるホテルが見えなくなるまでずっと、見てた・・・

なぜか泣いてました・・・  
嬉しくてか悲しくてか・・・  
・・・わからない

確かなのは、来週も逢えるよね

そう言つたよね 確かにカズ・・・

カズが言つてくれたこと・・・  
思い出してました。

何か辛い時とかはね

携帯のバッテリ - みたいに減つてきたら

充電するんだよ

充電は、俺がしてあげるからね。

でも、もう・・・

切れそうだよ 充電

さつき別れたのに・・・

どうしたらいいのよ

・・・カズ

家のベットはとても冷たいです

カズの部屋は暖かかったから・・・

カズとの時間を思い出して  
少しほうつとしてました。

メ・ルが届いた！

カズからだ！

楽しかったよ おやすみ  
来週も逢ってくれるよね？

返信はしないよ 僕メ・ル苦手

あはは・・・カズらしい。。

アユも返事書いづ わ

来週 楽しみにします。

今夜は迷惑じやなかつたですか?  
「書きたいこと あり過ぎ」・・・

でも、我慢して むやみなさい

・・・・・

返信・・・

やつぱり いなーし・・・

いの日から、携帯と一緒に  
眠ることになりました。

ペンドントも

不思議なもので週末まで  
いつもバタバタモード  
すぐに週末だつたのに・・・

週末・・・

なかなか来ない ><

メールは、送るが・・・

なかなか返信しない

返信返つてきても

うん。

そやなあ

わかつた

つて！！・・・・

ずつゝと待つて・・・

この返信は・・・辛いよ

早く来ないかな週末・・・

第六章 ぬくもり

お店は、相変わらず忙しいです  
まあ、いいことですが・・・

木曜日

明日はバスか来る！逢える？

スタッフが耳打ちします

ノルマニ

ガブの悪友がV.I.P. Roomに来た！

よしよし。  
カズのこと聞いてやるぞ。

悪友さんこと谷川さんです。

大切なお客様。トモさんからのです。

「席移動・・・」

失礼します。

おお アユ來たぞ！

あれれ  
・  
・  
・

かなり酔つてゐるぞ・・・

ええ！！目を疑いました！

カズもいる・・・

なんで・・・

動搖・・・ダメダメ わたし！

ここは、お店！他の女の子もいる。

深呼吸・・・スイッチON

よしーー！

いきなりで、ビックリしましたよ。  
カズさんも一緒だったんですね。

私は、谷川さんの隣に座った

「カズの隣に座りたかった・・・」

今日は、カズと横浜で飲んでてね  
ノリでさあ、アコところ行こうー！

で、来ちゃつたよ～横浜からw

そりなんだあ 嬉しいです

ありがとう 谷川さん！

ダメだあ・・・カズが気になる

スイッチ切れそう・・・

しかも、カズも酔つてる・・・

カズの隣の女が・・・き・ら・い

サヤだ！..やたらとベタベタ接客です！

谷川さんとの話が・・・頭にはいんない

ある意味かなり酔つてるので助かつてます。

もひつ・・・腕組んでる！..

すゞぐく、密着してゐる・・・

いつものサヤだけど・・・

相手は、カズだぞ！..

私も、そんなに・・・

腕も組んだことない！..！..！

カズも・・・バカツ！！

まだ一言も私と話してない！

ムカツ！！

でも、こんなカズもいるんだ・・・

短い間にいろんなカズ見てます。

「フウ - 頑張れ わたし！」

谷川さんがサヤを呼んでます。

こつちに来いよサヤ

アユと変われ

よし！-いいぞ。。

私は席を立ちカズのほうへ

ん・・・まだベタベタ！！

サヤ 谷川さんが呼んでるわよ

はい

やつと、離れた・・・

カズの隣に座りました。

でも、お店モードです！

ずいぶん酔つてますねカズさん

よつやく田があいました。

そつやなあ・・・酔つてるなあ

明日じやなかつたのですか？

うん セツ明日やつたよ

・・・かなり酔つてるぞ

サヤとの態度とずいぶん違います！

バ・カ・・・カズのバカッ！！

心で叫び・・・笑顔で接客

・・・がんばれ

もう、お酒はやめましょーうね。

ねえ！カズさんw

・・・わかった

やけに素直なカズです。

カズさんもいたからビックリしましたよ

周りの女の子を気にしながら接客  
いつものように・・・  
トモさんの「お客様との恋愛ダメ」  
すごく分かった・・・

なあアユ

はい 何でしょうか？かずさんw

カズの腕が私の背中に進みました・・・  
そして肩に手が・・・

だめだよカズ！！わたし・・・

ここお店だし・・・

どうか、スイッチ切れないで！！

カズはさらに私を近くに・・・

あ・・・カズの匂いがする  
ダメダメ頑張れ わたし！

もう ダメですよカズさん

次の瞬間

カズが私を抱きしめた！！

耳元で囁いた・・・

逢いたかつたよ アユ

・・・・・

わたし・・・

始めてこんなに近くにいる

・・・・・

崩れそうだよ

頑張れ！！わたし

お店での立場もあるし

心のスイッチ頑張つて！！

私はカズの手を離しました！

ダメですよ。カズさん

完全に夜の女・・・ON

ここからの私は完璧に夜の女  
他のお客様の席もこなしました。  
不思議なくらいに完璧です。

カズ達の席に戻ると谷川さんが  
アユ！この後いくぞ！  
何か食べたいか？  
・・・・

ええーー！アフター  
まだ、つづくの・・・><  
はい。分かりました  
支度してきますね。

私たちは、お店を出ました。

カズ、谷川さん

私、ナツキ、サヤ！ユウ

なんで来るのサヤ！

気が抜けない女！！

歩き出すとカズが・・・

俺・・・帰る！

眠い！だるい！

ええ！カズ・・・そんな

カズのいない・・・アフター

カズは、タクシーに乗ります

マイペースな・・・カズ

谷川さんも止めません

タクシ・のウインドウ開きました。

アユ！ カズに呼ばれました

はい 大丈夫？ 気分悪いの？  
大丈夫だよ w 「これ！」  
ん？

私の手にホテルの「キー」

待つてるからな

う・・・うん。

車が走り出しました・・・

私も一緒に行きたいよ へへ

谷川さん行きましょうか  
みんな、なに食べよつか  
「何も食べたくない」

アイツらしいな！  
なつ！アユ  
そうですねえ 〃

じゃあ、俺も今夜は帰るとするか

そんなんあー 「サヤです」  
今度、行こうなサヤ

わかりましたあー

谷川さんもタクシーへ

楽しかったよ。また、遊ぼうなー！

はい。ありがとうございました。

アユ！ 谷川さんに呼ばれました。

頼んだよw

ええ！？

谷川さんが微笑んだ。

すべて分かつてゐる・・・

はい！ありがとう。。

私は、すぐに向かいました！！

カズのところへ

ホテルに着きロビーへ

始めての「ト - ト？」深夜のロビーでです。

同じ光景だあ

ヒ - ルの音が響きます

フロントの人人が軽く会釈

50階！

扉の前に立つてました。

深呼吸 フウー

キーをさしこみます！

開いた！あたりまえですが・・・

なんだか嬉しいです

扉を開くと一面素敵な夜景が広がります  
この間と同じです。

ソファ - にカズがいます  
照明は点けてません

夜景の中にカズがいるようです。

眠つてるのかな？

そつと、近づいた・・・

カズ・・・大丈夫・・・

・・・・・

大丈夫だよ w

カズは立ち上がり

私を抱きしめました！！

おかえりアユ

・・・・・

ただいまカズ

逢いたくて早く来てしまった

うんうん・・・

アユは？逢いたかったか？

うん

カズが一段と強く抱きしめます。

もう スイッチOFF

涙も流れました・・・

夢なんかじゃ・・・ないよね。

私も強く抱きしめます。

抱きしめあつてる一人が・・・  
ガラスに映つてます。

夜景の中にカズと私が  
・・・

## 第七章 約束

しばらく抱き合つてました。

カズの力が抜けていくよつです

大丈夫・・・カズつ

・・・うん

疲れた 飲みすぎやな

ベットまで・・・

連れて行つてアユ

・・・うん

どこなのベット?

広くて見あたらないよ

あつちだよ・・・

フラフラしてるカズを連れて、  
いくつか扉を開けると大きなベットが・・・

カズと一緒に倒れるようにベットへ

私は、カズの背中を抱きしめていました

カズは、私の腕を握り締めたまま  
今にも眠りそうです・・・

アユウ

なに・・・

もう少しこのままでいてくれ

うんうん。。

カズの背中・・・暖かい。

鼓動も伝わってくる。。

やがてカズは、睡りました。

私・・・

カズが目を覚ますまで・・・

でも、出来ない・・・

両親との約束がある！

それも、ずいぶん前からの・・・

大切な用事だし・・・

「ごめんね カズ・・・

カズの体から離れました。

カズの寝顔みてたら帰れない！！

夜明けまで側にいるからね。

・・・・・

夜が明けてきました。

カズの苦手な夜明けです。

カーテン閉めておくね

私は、短い手紙を残しました。

「カズごめんなさい

今日は、以前から両親との約束があります。  
こんな貴方を残して帰るのはとても辛いです  
目が覚めたら連絡して下さい。

午後ならばいつでも大丈夫だよ。

「めんね カズ」

ホテルの「スペア・キー」・・・  
淋しいけど、手紙とキーをテープルに

おやすみなさい カズ・・・

両親との約束も終わりました。

部屋でカズからの連絡を待ちました。

あ～あ～なんで、「キー」

置いてきたんだろう

あの時は、もって帰れなかつた・・・

昨日から寝てないから少し眠るか・・・

ダメー！起きれないかも

眠気と格闘です。

そこに、電話が！！

もしもし カズ

うん 頭いで

ふふ w 大丈夫ですかあ

うん そや！ なんでやねん！

なにが・・・

力ギもつて帰れよ

せつかく2つ用意させたのに

・・・そりなんだあ

アユ 今日お店やろ

そうだよ。

じゃあ、もつていいくよ

ねえねえカズ

ん？

今から行つていい！

いいけど、アユ寝たのか？

寝てないけど、行くね！

待つててよ～すぐに行くからね！

プチッ！・・・切つてやつたあああ

いつもの、おかえしwww

眠気なんか、どこかにいったあ

服装も、カジュアル！！

着替える時間もつたといない！

心配は、ホテルです。

まあ、いつかあ～

ダッシュでロビ - 通過してやるが

ホテルに着きました。

かなり場違いな洋服です。

計画通り・・・ダッシュ！！

今日は、この迷路がウザイ！  
つてか・・・恥ずかしいへへ

カズの部屋の扉が見えた。。

カズがいた！！

・・・・・

驚いた！！

バスローブ姿だあ

・・・・・

バスローブに驚いたのではなく髪型です。  
いつもは、前髪あげてるのにシャワーオの  
後だから、前髪おりてるぞw

「かわいいw」

おい！

なに笑ってるん？

カズそのほうが可愛いよ

なにが？

前髪だよ。

ああ・・・つるさーねん

すぐに髪つくるから！

ええ～ そのほうがいいよ～

い・や・だ！

可愛いのに～

・・・・・

カズが照れます。見逃しません。

もう一度、心の中で「かわいい」

ああ～ス・ツ脱ぎっぱなしだよ

クロ・ゼットにかけておくね。

うん

カズのジャケットを拾い上げました。

ん・・・

・・・ムカツ！

ねえねえ カズ

なに？

香水ついてるよ

・・・ん?

だから、香水ついてるって！

女性の香水だよ！

そつかあ アコのか？

いいえ！違います！

ん・・・誰のんやろな～

・・・・

そうかあ！昨日アコの店でついたんやな～

そうだね！サヤの香水だよ！

私が席にいなかつた時、何してたの！

ずいぶん、ベタベタしてたんでしょ！

こんなに、匂いがつくなんて！

いや～ 普通に飲んでたよ・・・

あまり覚えてないし・・・

へえ～ 覚えてないんだ～

昨日のことは、何も覚えてない！

そうなんだあ～～

アユ怖いし！分かったクリ・ニング！

そうそう、クリ・ニング呼ぶから

ね。アユ～～

そつして～～昨日着てたのすべてね～～

分かりましたアユさま

ん！

シャツの襟に～～

カズさん～～これは？

口紅だね～～

私では、ありませんよ～～

そつ～～そうですか～～

誰のかな・・・

ムカツ！..サヤでしょ！..

そうかなあ～でもクリーニング！

なあ！アユ 機嫌を直して・・・

私が洗つてくるね！

・・・バスルームへ

アメニティの中に小さなハ・サ・ミ

チヨキツ！フフ 襟切つた！！

ねえねえカズ！

綺麗になつたよ・・・

ほらつ 見て・・・

カズ・・・かたまつてました。

マジかよ・・・アユ

これは、捨てましょう

ね。カズ

わかつた～アコ ニ・わ・い

でも、アコが新しいのプレゼントするね。

いいよ そんな事しなくても

ダメーするの！

なあ、アコつて・・・マジ怖いよ

少し落ち着いたよ。なつアコ

俺、そんな悪いことした・・・

飲みに行って、香水、口紅・・・

まあ～ 悪い事・・・だな・・・

ふと、気づいた！わたし・・・

「彼女でもないのに・・・」

そうだよね 「めんなさいカズ

アコが言える立場じゃないよね

本当にじめんね。

いや・・・あやまるなよ

立場とかそんな事は関係ないし

勢いにビックリしただけやで。

深く考えるのは・・・やめよ！

なつアユ

わかつた。『喧嘩したくなかったし』

カズ お願いしてもいい？

いいよ。なんかい？

ふふw 今から夕方までテ・トしよ。

でね。服装は、アユが決めるの  
髪型も、そのままだね。

いいよね。カズw

いやだ！

ダメー！アユの意図こと聞いてよ

いやー！

そんなん カズ・・・

せっかく機嫌直そうと思つたのに！

わかつた！！服装はいいけど

髪型は いややで！

あはつ w

れつきクロ - ゼットで見たんだあ

サ - フブランドの洋服！

いいよね w

ええつ ホテルの外でるのか？

そうだよ。渋谷行こうよ

マジで！

うん。。恥ずかしがるカズを

無理やり連れて行きました

髪型も、そのままで w w



## 第八章 24時間

渋谷に着きました。

ねえねえ～カズ

・・・なにつ！

手・・・つな～つかあ～

ムリ～！

なんですよ。

恥ずかしい！

じやあ・・・

・・・・・

いきなり、腕を組みました。

いいでしょカズ

・・・ああ「照れてる」

こんな、カズがとても好きです。

服装だつて、まったく普通で  
髪型だつて可愛いです。

ス・ツ姿のカズとは、別人だけど・・・

今は、誰が見ても恋人です。。

カズは、自分の姿を何度も見ています。

今日のカズ一段と若いよw

そつかあ！

同じ年くらーに見えるよ

・・・・

なあアユ

なになにw

アユつて、いくつ？

あつ・・・そうだった

カズの年は、聞いたけど  
私の年齢まだ言つてしませんでした。

そつかあ・・・私の年齢も知らなかつたんだ

少し複雑な気持ちです。

先月で23になつたんだよ

23！ほんまに！

なに？そのリアクション

もつと、上に見えてたの！

・・・・・

いいや・・・そのくらいだと

嘘だあ カズもつと上だと思つてたんでしょ

・・・・・

大丈夫だよ・・・アユ

答えになつてないよカズ

そうじやなくて23歳か・・・

俺との年の差を考えてた  
今のアコは23に見えるよ  
お店では、もう少し上に見えてた。

そつかあ～

アコは、年の差はまったく感じないよ

カズは？

今まで感じなかつたよ

「今までつて……」

年下は……お子ちゃまですか？

いや立派な女性だよ

こんなに年が離れてるのは……

のは?なに……

始めてかな、デートとかするの

そりなんだ……

複雑な気持ちになりました……

“やついたアコ？”

「うそ・・・なんでもないよ

で、どこ行くの？

決めてないよ

ブリーフケース洋服をがそりよ。

プレゼントもしないとね。

マジですか・・・アコ

決まった店もなく渋谷の一

そうだよ～

だって、デートですよ～

・・・・

そうだった

アコに任せると

プレゼントのシャツは決まりました。

でも、まだ私のたぐらみがあります。

次は、ここね！

なんでやねん

いいから～

始めてでしょうカズ

あたりまえや！

撮ろうよ「プリクラ」

あはは w

最高の笑顔・・・わたし

ムツとしてる・・・カズ

でも、記念が出来たね。

カズもどこかに貼つてよー！

ムリー！

こつそり、貼つてやる！

次は・・・ここ

ええ、まだ行くんかあ

最後だから、行くよ。

カジュアルな洋服屋

ここでね、カズに似合つの選ぶよ。

はいはい・・・

お好きにしてくれ

あはっ　ww

あきらめたようです。

まるで着せ替え人形状態のカズ

私の趣味で、カズだつたら絶対に  
選ばない服装です。

楽しいぞお

全身！私が決めました。

時間が・・・ありません！

お店休みみたい・・・

カズも気づいてました。

そろそろだね アコ

・・・うん

いいで、分かれような

う・・・うん

そんな顔するなよ

俺、お店行くから

えつ 本当に?

素直に喜べなかつたちやんと、  
接客出来るの・・・

この間のよう・・・

ダメか?行つたら・・・

・・・いいよ

大丈夫だよ！ベタベタしないから！  
お店が終わるくらいに行くよ！

なら、いこよねアコ

・・・・・

分かってくれてます

うん。ありがとう

一緒に帰れるよな？

うん。 大丈夫だよ

お泊りできるか？

お泊りつて・・・

出来るみ・・・

〇×お泊りセシットも忘れるなよ！

すいふん簡単に・・・

「言こすがだよ・・・カズ」

こつものように変身です。

今日は、荷物が多いぞ

始めてカズの部屋に泊まる！

ダメダメ・・・

お仕事モードだよ！わ・た・し

お店は忙しく大変でした。

私は時間ばかり気になります。

カズ・・・

いつ来るんだろ？

ラスト30分・・・

つて、言つても時間通りに終われません

カズが来ました！

いらっしゃいませ。

カズは、いつものスツ姿です。  
もちろん、髪型もです

アユ俺、カウンタでいいよ

本当に？

うん いいよ。

仕事の邪魔にならないようになつ！

ええ～そんな・・・

確かに、この席は見えないので  
でも、お客様を座らせるのは・・・

いいから～早く行け！アコ

わかつた～

お店が終わり近くでカズと待ち合わせです。  
そのまま、二人してお店を出るのは不自然  
私は・・・よかつたりして・・・

カズは、理解してくれてます「水商売」

大きな荷物をもって車へ  
カズと一人の空間です。

おつかれアコ

うん。おつかれさま～

嬉しい。。この瞬間からスイッチOFFです。

しかし、アユ・・・

なに？

海外でも行くのかw

・・・この荷物

女の子は、いろいろとあるのつ・・・

そつか 大変だな～

もうう～ 恥ずかしかった。。

## 第九章 告白

部屋に着きました

今日は落ち着きません・・・

アユークロ - ゼット使ってや  
自分の好きにしていいからな。

・・・うん。。

なあアユいつまで?

なにが?

いつまで、 いられるの?

・・・ええ

俺が帰るまでいいか?

うん・・・いいよ。

分かった、 ゆっくり過(じ)せらるなー。

うん。。

こつちに来て・・・

カズに連れられていったのは・・

ここが、一番氣に入ってるんだ

おおー！バヌル・ムです・・・

すこく広いねえ、夜景が綺麗！

お風呂に入つて夜景最高やでw

うんうん。でも、見えないかなあ～

こんな、高い所だから見られないよ

見えてもいいやん！アユ、スタイルいいし

あははははは・・・

・・・・なに笑つてるのつづ！-

カズは、少しお湯を入れ始めます。

足湯だよ。アユ

カズと寄り添つて座りました。

うわあ～　いいねえ～

だろ！

ちつとい、待つてるよ

は～い。

カズはピンドンを持ってきました。

こうして飲むんだ・・・いつも一人でねw

でも、今日はアユがいるから最高にいい気分だ

「まるで、映画のワーンシ～ンです。」

凄いネエ　カズつていつもこんな週末いいなあ～

でもこれからはアユも一緒にだろ？

・・・・・

いいの・・・

もちろん！

すっかり、落ち着いてました。

カズの話は楽しかったです。

学生時代の話や友達のこと

同じ趣味のサ・フィンの話など・・・

アユ着替えれば？

このまま、シャワ - して樂にしろよ

バスル - ムから、カズが出行きました。

そ う な ん だ ！ ！ ！

化粧落とさなければ ・・・

スッピン - ううう

そ う だ よ ね ・・・

化粧したまま眠るのも ・・・

・ ・ ・ ・

考 え て も 仕 方 な い ！ ！

す つ び ん の ア ユ 見 せ て や る ぞ お

シャワ・をすましパジャマに変身!

何度もガミを見ても・・・

変わらないよ ><

バスルームを出てカズの側へ

ジャジャーン どう?

すっぴん アコちやんだぞお!

ん?そらー そやひ・・・アコ

シャワ・して 化粧してたら

なんでやねん・・・つてなるやんw

そうじや・・・な・く・て

「バッサリ切られたあ」

あの〜 感想とかないの・・・

なにが?

すっぴんの・・・

・・・別につ

あつ・・・そうなんだ・・・

じゃあ、俺もすっぴんになつてくれるよ

バトル・ムに行つたカズツ

私のこの緊張・・・なんだつたんだろう

カズ仕事してたんだ・・・  
PC開いてます！

見ては・・・いけない

でも、気になる

カズの仕事が分かるかも・・・

でもでも・・・

ダメだよ・・・アユ！

もう一人の私が囁いた！

だよね。。

お・いアユ

カズが呼んでます。

バスルームの扉の前で、なに？

入つてこいよ

ええ！！！

なに・・・言つてるの・・・

なあなあ、アユ

少し扉を開けました・・・

なになに？

来てごらん

・・・・・

本当に入るよ！！

アワアワ www

何してるので・・・カズつ

これが、ええねん w

アワの中にカズがいました。  
子供みたいです。  
顔だけてました。

なに？その姿を見せたかったの？

違う違う w

見てじらん夜景

あのビル何か書いてるやろ

ホンとだ〜

部屋の明かりで作ってるんやな

不思議やなあ どうしてるんやろ？

各部屋に誰かいて、点ける  
とか、行つてるんかな w

それは・・・ないのではカズ w

分かつてるわあ

カズの行動、発言・・・

いつも、驚かされます・・・

カズが出て来ました。

おお～アユ！

なに？

すつびんやん w

いきなり！！！

恥ずかしいよ～ カズつ

どれどれ、よく見せて w

わ～！～！

わっかいなあ～アユ w

すつぴんのアユ見たつた w w

さつきも 見たくせに・・・

改めて、言わなくとも・・・

可愛い、可愛い ええやん アユ w

ミシミシ・・・ 頭をナデナデ

子供扱いされてる・・・わたし

疲れてないか？

昨日から寝てないやろ

うん。大丈夫だよ

ムリするなよ

うん。。「寝れないよ」

カズは、PCに向かつて何か始めました。

お仕事？

うん そう・・・

先に寝ていいからな

大丈夫だよアユ若いしｗ

なに・・・してるの？

見てみるか？

いいの・・・

いいよ

ん・・・・・

・・・・・

分からない・・・

わからないよ・・・カズつ

そつかあ

じゃあ、分からんでええよw

また～あ 子供扱い!!

「株」みたいな感じだよ!

もう少しで、終わるからな

はい。

邪魔しないでおけ。

しばらく お部屋の探検中です。

本当に広いなあ

私だつたら、怖いな～

この広い部屋で1人は・・・

そうだあー！ピアノ弾いてよー！

こんな、時間だと迷惑・・・

まあ、いいかっ♪

カズが近くに来ました。

この時間はダメだよね？

そつかあ 問題ないやろ♪

あはつ♪

さあ、ベットに行こうか！

・・・・ドキッ

う・・うん。

横になると、すぐに眠れるよ。  
寝てないんだから

おいで、アユ

はい。

ベットは一つ・・・

こっちアユ使って！

・・・うん

私はベットに入りました。

ひとりでは、広すぎる・・・

ふたりだとちよつどいい・・・

「一緒に眠りたい」

カズは、ベットルームにあるソファへ

眠らないの・・・カズ？

うん もう少しこの時間を感じてたいから  
いつもひとりだろ、今日はアユがいてるから  
とても、落ち着ける。

アユ、そのままでいいから聞いてくれ

俺、はつきりアユに付き合って・・・

言つてないよな！でも、俺たち今・・・

ホテルの部屋に・・・ごめんな。

もう少し、俺に時間をくれ！自分の中で整理出来たら、ちゃんと言うから。

それまで、待つてくれるか？それまで・・・

アユを抱かないし！でも、アユが待てないならいいよ。俺から、離れて行つても・・・

「・・・なんだろう・・・悲しい・・・」

アユは、待つてゐるよつ・・・

返事しなくていいから、聞いてくれ！

でも！もし・・・アユの事を苦しめたり傷つけたり、誰かがしたら・・・

俺のすべてで「お・ま・え」を守るから！今、俺が言える事と気持ちだから。

・・・はい。

「ガラスの翼～激動」へ

## ガラスの翼～激動（前書き）

「カズとアコ」

ふたりは、歩んで行く

その先には・・・

幸せな時・・・

悲しい時・・・

ただ言えること

もどることなど

考えられなかつた

## ガラスの翼～激動

カズの言葉の意味・・・  
もつ少し時間をくれ・・・  
自分で整理・・・  
なんだらうへ  
いろいろ考えてしまひよゝ・・・  
今は、何も聞かないでカズを待とう！  
もう、離れることは出来ません！

始めてのお泊りは、朝を迎えました。

眠れないと思ってましたが昨日から疲れが・・・  
いつの間にか眠つてました。

私が目覚めると隣にカズがいません！

私はベットルームから出て隣の部屋へ

・・・手紙が！！

おはよーアコ。

起きたら連絡してへ

ホテルのジムにいるから。

内容読むまでドキドキでした。

もう！ 寝起きなのに・・・

心臓に悪い・・・

マイペースなカズが戻ってきました。

おはよーアコ

・・・うん、おはよう

いいねえーアコ

何が？

秘密だよ

ええ～ なになに

あれつ アコ

寝起きの顔も可愛いね～

そうだった ><

見ないでよお

お腹すいたなル・ムサ・ビスで  
いいよな。

うん。「話・・・切られた」

「なんだらう・・・秘密」

カズは眠らなかつたの?

寝たよ~

アコの寝顔見てねw

ええっつ

本当に ><

アコつて・・・

なになに?

寝言w言つてたよw

なんて言つてたの!!

お腹すいたあ～

つてね w

嘘だあ～

今日は何して遊ぼうかアユ  
どこが行きたい所あるか？

・・・ん？

カズは？

そうだな買い物かな

いいよ。。決定！

この間はアユに任せたが  
今日は俺が決めるよ！

は～い。。

お店も休みだし、ゆっくり出来るな！

うん。。

さあ、食事して出かけるよ。

カズとホテルを出ました。

どんな変身させようかな～  
アユを変えてやる。お返しや～

カズに連れて行かれたのは

ブランド・・・

またもカズとの価値観が・・・

嬉しかつたけど「いいの？」

ばかり口にしてました。

どこのお店行つてもカズは  
VIP扱いです。

この日は最後までカズペースです。

もう・・・世界が違うすぎ！

アユ夜はホテルで食事いいよな

うん。

部屋に帰つて来ると・・・  
ル・ムサ・ビスで食事ですが・・・  
10人以上座れる大きなテ・ブルに  
運ばれた食事・・・

あの・・・カズ???

誰か来るの?

来ないよ

こんなに、食べるの???

食べれるだけで・・・

もつたいないよ!!

そつか・・・そ.udだな

今度からアコに任せると

やつしましょりー

メニューにない物も作ってくれるよ

あ・・・そ.なんだあ

私の常識が・・・「おかしくなる」

またたりタイムです。

いつもの休みだったら何してたかなw

今はカズとDVD見てます。。

ねえカズ

・・・ん

この部屋とベットルーム、バスルーム  
しか使ってないよね？

・・・そうやなあ

いつもだよ。だから無駄に広い！

じゃあ他の部屋にしたら？

・・・そうやなあ

来週からまたしおりよ。

出来ない！

なぜ？

「」の夜景が一番やから

そつなんだあー

でも、もつたいたいから

部屋もアユが決めていいよね

それは、あかん

・・・・・

ここが いいの！

なつ！アユ w

わかつた・・・

「わかんないよ」

カズがベットから大きなシーツ  
を持つてきました。

アユこれに包まれ！

ええ～？？何するの？

いいから裸になつてだよ。

バスルームで待つてるからなつ

カズは・・・笑顔でバスルームへ

・・・・・

裸で・・・

包まれ・・・

恥ずかしい・・・

カズペース・・・

言われたままシーツ包まり  
バスルームへと・・・

俺なあ 一度したかつたんや女性の髪・・・  
洗つてあげたかつたんやw

いいやろ

・・・うん

カズに抱きかかえられました。

子供の頃を思い出します。

お母さんと洗つてもうひとつた頃・・・

でも、すじぐ優しい不思議な感じ・・・

抱かれても・・・

優しいカズに・・・

朝が来ると、じばりく離れ離れです。

とても、寂しいです

週末まで逢えないよ・・・

遠距離恋愛?

でも、ないかあ

週末3日間は、一緒だし・・・

空港までアコも行くね。

・・・つづ

分かった。

朝食を済ましチェックアウト  
変な感じだけど週末まで  
誰かの部屋になるんだなあ

空港に着くとカズは搭乗口へと

じゃあ

うん。 . . ばいばい

カズが見えなくなるよお

ん?

何かしてる . . カズ

手話?

意味 . . 分かんないよ

カズの姿が見えなくなりました。

なんだつたんだろう??

カズから電話です!!

もしもし 分かつた？

わかんないよ・・・

手話？

違うよ「サイン」だよ。

意味は？

「貴方に夢中」だよ。

二人だけのサインだよw

うんうん。「嬉しい」

切るね アコ！

うん・・・

もう、飛行機の中だし！

・・・・・

乗る前に、かけるよ・・・

普通は・・・



## 第一章 値値観

「うしてカズとの日々も2ヶ月が過ぎました

仕事も「恋」も順調です！」

いつものように、いつものホテル

2ヶ月だね。カズW

・・・そつか

ずいぶん時間がかかるてるな俺

なに？

気持ちの時間だよ

・・・ああ

アユは平氣だよ。

カズのペースで・・・

「平氣」といつより、怖いのもありました

カズは夜景を見ながら話しが始めます。

アユ

はい。

俺・・・婚約してたんだ

・・・・・

「心臓」

・・・婚約つて

でも今は、していないよ

話が見えないよカズ・・・

体が震えてるわたし・・・

ちつと待つて！カズ・・・

大丈夫か？アユ

少し・・・

落ち着かせて・・・

うん ごめんな驚かせたな

かなり動搖するよカズの話・・・

でも、最後まで聞くからね

少し待つて・・・カズ

うん！…もう大丈夫！

「めんなさい

続けて！

うん分かつた

婚約してたけどな

あの大地震で・・・

ダメになつた！

お腹にもう一つの命も・・・

一瞬にして2つの命・・・

俺だけが助かつたんだ

「言葉が出なかつた私」

地震の一日前には、Jリモート

そり、Jの部屋だよ。

俺は足をやられてた

足の座我は、2・3ヶ月で治る

心の方が・・・

で、あの谷川がこの部屋を用意したんだ

病院よりいいやろーてね。w

震災後すぐに迎えに来たよ・・・あいつ！

六本木のおねえちゃん呼んで  
Jの部屋クラブカズになれたよ。w

あいつの気持ちすぐ分かった

その時、半年くらいJに居たんだよ

夜になると一人でね。

夜景を見て・・・

かくうじ今と同じ感じで

もつ一人の俺が映ってるだろ

ガラスに映る俺と話してた

夜景は変わらないけど

もう一人の俺は日々・・・

変わつてたよ・・・

こんな事も考えた！

本当は俺の命が奪われて

ここに居るのは現実ではない！！

俺・・・生きてるのか！？

マジで考えたよw

なんか・・・重いなあ

こんな話w

「めんな アユ

「なんて答えれば・・・」

この時、言葉が出ませんでした。  
声も出なかつた……

こんな事を抱えて生きてる……

カズつて……

大丈夫だよ……カズは……

ちゃんと生きてるよ！

だつて私が……

「涙でこれ以上話せなかつた」

大丈夫かアユ

抱きしめてくれてました。

ぎやくだよ……わたし

ごめんなさい。泣いたりして……

しつかりしないとね……

ごめんね……カズ

いいんだよ w

アユ・・・ありがとう

でもねカズ・・・

大切な話・・・ありがとう。。

ずっと、大切にしてね。

そうだね。アユありがとう。

その時の町はね。

戦争つて知らないけど

きっと、こんな感じと思ったよ

まあ、2日後には東京にいたけど・・・

情報は、いろいろ入ってきてたし

良い情報・・・

悪い情報・・・

「ガラスに映るカズの目から涙が」

最悪なのが、そんな町で

ミネラルウォータ - 1本

2000円！-！とかで売ってる奴！

人の足元見て・・・

最悪だよ！-！

そんな連中見て・・・

俺の仕事も同じと思つたよ

「カズの仕事・・・」

どうして？

例えば自分達に子供がいたとする

パパのお仕事なに？

聞かれても俺は答えようがない！

まともな仕事してたら言えるよなw

・・・うん

アユ 近くにあいで・・・

振り向いたカズの側へ

アユ！

はい・・・

カズは自分のシャツのボタンを少し外します

・・・・・

するとカズは私の手をボタンに・・・

外してくれ・・・アユ

・・・・・

私は外し始めました

この時、手が震えてたの覚えてます

・・・・・



## 第一章 婚約

カズの胸元が・・・触つて『こらん

生きてるか・・・俺

私の手のひらにカズの鼓動が・・・

うん大丈夫だよ

そつか・・・

カズはシャツを脱ぎました。

上半身裸のカズ・・・

・・・・・

抱き寄せられました！

カズの肌の温もり・・・

俺のすべて・・・

アユ

・・・はい

見てごらん夜景

・・・・・

私は夜景を見ました。

二人抱き合つてる姿も・・・

映つてる・・・

・・・・・

えつ！

全身に何かが走りました！！

・・・カズ！

何度見ても・・・

カズの背中に・・・

女性の顔が！

なに！？

見えたか アユ？

震えてるよ

「何も聞こえなかつた」

そ、刺青！？

カズの背中に刺青が・・・

俺のすべてだよ・・・アコ

「今夜二度目・・・」

これで、すべて話したよ

どうかな・・・アコ

返事出来なくなつたやう

・・・・・

これが俺なんだよ

婚約の事

背中の事

アコと今まで過じた時間

全てが俺なんだ！

「」からの一步はアコの人生！

よく考えてくれ！

進むも戻るも

アコが決めるんだよ！

一度にいろんな事で

心がついてこないだろ

時間かけて考えてな。

そう言うとカズはシャツを着ました。

アコ

俺、部屋から出るから

落ち着いたら帰ってくれ

今、このままでは・・・

心配だし

落ち着いたら帰るんだよ！

カズが出て行きました・・・

どのくらいだの？・・・

その場から動けません！――

『氣づくと荷物まとめてました。

何も考える事が出来ません

そのままホテルを出てしばらく、  
歩きました。

どこからか、分からぬけど  
タクシ・で、家に帰りました。

その日からお店も休んでしまい  
携帯も電源OFFです！

1週間くらいが限界・・・

夜の世界では・・・

これ以上、休むと・・・

こんな時、家族の優しさが身にしみました

両親は、こんな私を見ても

何も言わずに普段通りです。

私が週末、外泊も・・・

週末は食事いらないね。

お母さんは言つてくれます。

水商売に入った時も頑張りなさい・・・

本当に甘えてばかりこれ以上、  
両親に心配かけられません。

カズと進む・・・

カズの事、話せる?

ムリだよ・・・

進んだら、いけない世界

カズの背中!

あの人は、私といふ時・・・  
優しすぎます・・・  
子供のよつな田をして・・・

びつじて！！

そんなカズなのに！！

私の知らないカズ・・・

どんな田をしてるんだろう

あの田で何を見てきたんだらう

分からぬいよ・・・わたし

1週間外に出られませんでした。

お店行かなくては！！

携帯・・・電源ON

「メ・ル、着信、留電」

いっぱい入つてます

カズからは・・・

何もありません

・・・お店に出た私

やつぱり、1週間なのこ  
すっかり浮いてます！

いろんな意味で早い世界です！

でも、家にいるよつ・・・

マシかなあ・・・

気持ちがまぎれる・・・

つぶれそつだよ・・・

そんな時トモさんが来ました

トモさんの顔みたら涙があふれました  
しかも、お店なのに・・・

トモさんは私をスタッフフルームへ

アコ 何じてるのーー！

私は、お密で來てるのよー！

それなのに何してんの！

谷川さんから少し聞いたわ

アユとカズさん？の事！

アユ！ 私が命かけて築いたもの・・・

アユには、関係ないのね！

アユが休んでる時にいろんなお客様から連絡入ったのよ！

私は、この世界をよならしたよ！

アユのままお店出るのはやめて！

この世界から離れるか他のお店に移つて！

この事を言ひに来たのよ！

今のアユには恋愛も仕事も出来ない！

病気で入院つて事でスタッフに伝えるよ

いきなり、いなくなる事は出来ないでしょ！

分かったアユ！

返事出来ませんでした・・・

そのままトモさんに連れられて  
お店を出ました。

アユとカズさんに何があつたのか知らない!

中途半端はー やめなさいー！

じゃあね。アユ

すみませんでした・・・トモさん

明日からの事は、自分で考えなさい！

私・・・

何してるの？

トモさんの大切な・・・

気持ちがまぎれる・・・

バカな事、考えてた

仕事も失つた・・・

信頼も・・・

みんな・・・失つた

また家に閉じこもりました。

お店は、病氣で急遽やめる事に・・・

トモさんが手を回してくれてました。

お母さんは、何も言わずに少しでいいから  
ご飯食べなさいよ。いつも笑顔です。

ここにいても心配かけてしまつ

どこかに行こう・・・

私はカズがいる神戸へ向かいました。

もちろんカズの居場所など知らないし、  
逢う気もなかつた。

ただ、もうひとりのカズが、目にしてる  
ものを見たかつたのです。

カズとの事を考えよ'づー。

はつきり、しないと！

何も知らない町・・・

少しどこかのホテルで過ごう」そつ  
でも、両親には連絡しました。

楽しんでね！ただ一言でした。

「ありがとう」

24時間考えましたカズの事を！

ほかに何も考えずに！

カズが暮らしてゐる町で

週末になるとカズはいないのかなあ？

そんな事も考えて・・・

でも、カズつてなぜ週末は東京なの？

考えた事ありませんでした。

仕事で・・・違う！

いつも私と一緒にいた。

何をしに来てたんだろ？

始めて何かが見えたよくな気がした。

もう一度逢つてこの事を聞きたい！

私と出会つ前から・・・

なぜ東京に？

帰ろ！

帰つて連絡してみよう。

## 第三章 女性

無駄にならなかつたような氣もしました。  
何も決められなかつたけど！

カズに連絡を・・・

なかなか出来なかつたのでメールをしました。

話しば・・・

あつと、出来ないだるつと思い・・・

その日の夜、返事が来ました。

「明日こつもの部屋で待つてゐる」

週末じゃ・・・ないのに・・・

もう一度メール・・・

ビtocいるの？

今は京都だよ・・・

明日つて週末じゃないよ。

カズからの返信来ませんでした。

かなり頑張つて家を出ました。

食事は、 いらないの？

・・・返事できません

分かったよ。 「 こつてらっしゃい」

お母さん・・・ありがとひ。

ホテルに着きフロント前へ

スタッフさんが・・・

「 お帰りなさいませ」

ビックリしました！

私のこと覚えてるんだあ

す（）こ、 お仕事です！

でも、なぜかホッとした。

50階扉が開く・・・

緊張・・・

部屋に向かいいます・・・

部屋の扉を開けてカズが待つてます！

なぜ・・・？

私が来るの分かったの・・・

そつかあ！

スタッフとカズの連携だ！

ここ の ホテル は ・・・

おかえりアユ

・・・・・

優しい目をしてるカズ

なんて言えば・・・

・・・はい。

どうした？その顔はもつと、  
アコらしい顔見せろよ。

・・・カズ

まあ久々の乾杯しようかあ

「あまりにも自然にしないでよー。」

アコ話をしに来たんだろ？

まずは落ち着いて大切な時間なんだからね。

・・・うん

そうだ！中途半端はダメー！落ち着いつけ

ぱっかりで疲れたよ

・・・そつなんだ

あつー週末じゃないのに、よかつたの？

うんー問題なしだよー！

カズは、昨日の出来事を楽しそうに話してくれました。

私を気遣つて！でも、落ち着けました。

・・・カズ

ん・・・なに？

私ねカズの話聞いて・・・

うんうん

そうだ！アユ

バスルーム行こう

足湯しよう！

おいでアユ

・・・・・

・・・うん

始めての時もこんな感じやつたなw

・・・そうだね

「めん。 続き・・・

・・・うん。

カズの話聞いてね凄く驚いたよ。

婚約の話は受け入れたよ。

うん。

・・・でも

そうやなあアゴ

背中のものは・・・

違うよな!!

結局は、極道やしな!

・・・・・

「そんな、はつきり言わなくとも



## 第四章 真実

でもなアコ極道って言つても  
どこの組とかじやないよ。

・・・ん?

どいつ言つこと?

何々組とかあるやろ

・・・うん。

そんのは、ないで！

ん・・・そいやなあ

カズ組かなあ

よく分かんないよ・・・

ん・・・そやなあ

刺青イコール極道

この常識は、捨てて！

難しいかもな

この背中のものは

ずいぶん若い時に入れたんだ

ある極道の人に憧れて

同じものを入れたかつたんや

その人と約束があつて

刺青はいいけど組には入れない！

これが条件やつたんや！

で！俺と、もう一人だけ入れた。

ああ・・谷川じゃないよ。

俺の一一番の親友ね！

なんか・・難しいなあ

聞いてても分からんやろ

うん・・・

でもな組に入つてないけど

やつぱり・・・同じかな

してゐ事は・・・同じかも

いろいろとお金が必要やら

裏の世界でも。

だから俺のところに来てな

お金を作るんや。

簡単に言えば極道が俺の仕事のお密つて事！

分かる？

・・・・・

じゃあ、カズは極道じや・・・

ないつて事？

どうだろ？・・・

それは、俺を見てそれぞれが判断してゐるよ

そろそろアコ

法律違反は、しないよ俺はね。

の人達にとつては、大事な存在かな？

いろいろと、してくれるから

運転手とか、送り迎えとかもw

そんな時、見たら極道さんでしょうw

背中のものも、その人の生き方に憧れた

極道に憧れた訳ではない！

まあ、これは俺だけの常識であつて

世間では、誰も認めないけどね！

おおー俺が話してたw

・・・ごめん

アコの話、聞かないとな

うん・・・よく話してたよカズつ

「でも少し楽になつてた私」

あのね、カズ週末何しに来てるの？

・・・そうやなあ

自分を見失わないように東京に来てる  
向こうだと、知り合いとかいるし  
落ち着けないからリセットしに来てるw

稼いだお金もね！全部捨てに来てる！

・・・後はアコに逢いに来てるw

・・・もう

「少しだけ笑えた・・・わたし」

そうだったんだその時間をね・・・

そりでしたよ！アコつ

で！次は？

ええ・・・ないっ

ないの？アコ

・・・うん

いろいろ考えたけどね・・・  
どうしたらいいのか分からぬの・・・

・・・そうやなあ

アコの小さな心・・・いっぱいにしてもうた  
「めんな。こんな事、本当は考えなくていい事  
やのになあ

でもねカズ

今のは聞けてよかつたよ

まだ理解出来ないけど、よかつたよ。

息できたから・・・

苦しかった・・・

本当に・・・

そつかあ 「めんなアコ

かなり冷静なアコになつたかな?  
うん・・・そうだね。

よかつた!今のアコで答えをだして!

・・・・・

ダメ・・・出ないよ!

カズは?

ん?

カズは、どうなの?

アコと離れられるの?

「なんで聞いたのわたし・・・」

俺かあ・・・

答えは、あるよ・

そうなんだ・・・

「怖い・・・」

いいのか？

俺の答え言つて！

・・・・・

アコは何を一番悩んでる？

難しいよカズつ

そうだな！

でもねカズ・・・今日  
はつきりするの！

もう、これ以上苦しみたくない！

みんなにも心配かけられない！

そうだね！ みんみな

トモにもだよ！

えつ！カズ知ってるの・・・

お店やめたのも！！

なんで・・・

トモに聞いたからだよ。

アユって首に何かつけるの苦手らしいなw

なのに、俺のお守りつけてた！

トモが言つてたよ。お店行つた時  
ネックレス見たつてね。

本当は絶対につけないんだろ！

それ見てトモが連れ出したわけ。

怖かったやろ・・・アユw

・・・うん

だから、アユが頑張ればいつでも  
お店は戻れるよ。

でも、本当に病人にされてるよw

退院まで待つててね♪

トモが復活してるよ！

そんな・・・・・

トモさんが・・・

カズつ・・・・

・・

## 第五章 極道

いじょ泣いてアコー今まで頑張ってたんやろ

・・・うん

結局・・・

私は・・・

皆こ・・・

守られてた・・・

カズにしがみついて  
いっぱい涙流しました。

トモとは、谷川と何度かあつた事あるんだ

あまり話は、しなかつたけどねw

アコと知り合いつ前だよw

今回のことば、谷川とトモに感謝するんだよ。

俺は、何も言つてなこよ。

落ち着いたら、お礼しないとな。

うん・・・分かった・・・

アユ

俺との事は、どうする?

・・・・・

俺の気持ちを言えばいいか?

・・・・・

でも、カズにさよなら言われる・・・

ついて来いって言われる・・・

どちらも返事出来ないので?

どうあるの・・・私

アコ聞いてくれ俺はアコとの  
時間を無くしたくないよー

これが答えだよ。

嬉しかった・・・

素直に・・・

俺の気持ちは変わらない

ただアコが苦しみのなら

俺は、消えるよアコの前から

今日は泊まって!

仕事の事も、ちゃんとと考えて!

はっきり、しないとな!

俺は別の部屋に行くからひとつで考えてな。

カズは部屋を出て行きました。

ひとりの部屋は広くて淋しい  
カズもこんな時間を過ごしてたんだ

ガラスに映る・・・私  
もうひとりの・・・私

話しかけてみよう

いろんな話をしました。

答えては、くれないけど

カズも話してたんだな

・・・

この時、私の感じたことは

「孤独」

カズつて・・・

すゞく淋しい人

自分にしか見せない

弱いところ・・・

可愛そうな人

カズこそ・・・いっぱいになつてゐよー

カズの心・・・

少しくらいなら私にも・・・

出来ることあるよね・・・

こんな部屋でひとりにはー

やせられないーー

「私が貴方を守る」

「ごめんなさい・・・

おかあさん・・・

最後にするから・・・

心配かけてしまつのは。

少し嘘もつきます・・・

許してね・・・

もう一迷わない！

カズについて行く

何があるか・・・

分からぬ世界だけど

カズを信じていく。

「カズに逢いたい！連絡をしよう。」

もしもしカズ

はいよ~

“EIJの部署でこられるの？”

早く帰つてきて

うん。決まつたのか？

決めたよー！

じゃあ・・・向かうよ

少し待つててな

いいけど・・・なぜ？

セイジのホテルには、いないよ俺

ええ・・・

他の部屋つて言つてたじやん

ああ・・・

なんとなく、他のホテルにしたあ  
www

笑つといひじや・・・ないよーー！

早く着てね！

充電切れちゃうぞー！

W  
W  
W  
W  
W

了解だよ！アユ

気持ちは決まりました！  
全力でカズに飛び込む！！

扉開いたら・・・

カズに飛び込んで行く

私の気持ちを伝えよう

ヨシヨシしてもらおう

ギューっとしてもらおう

・・・・

扉・・・

早く・・・

開いてよ・・・

・・・・

しばりく「はらねつ」

扉と・・・

遅いから～！

扉がああああ開いた！！

よし～！

カズつ・・・

・・・・・

お土産♪ w

凄くいっぱいの・・・

カスミソウ・・・

アユ♪前見えない w

「カズのパンチに負けた・・・」

どうしたの、こんなに！

あるだけ購入した

アユの好きな花とか分らんから

由つて言つたら、これ出てきたんだ

後の白い花は少なかつたのでww

「カズの攻撃に負けてしまった・・・」

白い花に、ふたりで色を付けて行こう。

なつ！ アユ

・・・・・

はい。。

私の攻撃は・・・

カズの行動、言葉ではダメ！

私の言葉でも伝えよつ

カズの側にいて・・・

いいですか？

うん。いいよアユ

ゆっくり進んで行こうな

俺の心の「カギ」

アユに渡しておくから

もう、ダメと思ったら

そのカギを捨てて

わかったな アユ！

・・・はい。

じゃあ、アユの「カギ」も・・・

それは、いや w

なんでもよ

なんでもや！

アユが2つの「カギ」持つてて！

分かりなさい w

ん・・・

でも、私の彼氏だよね？

うん俺の彼女さん！だよね w

うん。。

ここからは、若い私のペースです！  
ずいぶん困らせました。

カズ♪ 携帯かして w

ほい

ふふふ ペタッ。。

なにするねん！……！

プリクラ貼ったw

絶対に取つたらダメだよ！

約束・・・ね。

ムリ！…！

オソロのパジャマ置いに行け！お。

ムリ！…！

いろいろ言つたけど返事は

ムリ！…！

ばっかりです！

アゴお店どうするねん？

そうだった・・・

カズは、どう思ひ？

どう・・・って？

私の仕事・・・

理解してるよ

俺は、まったく気にしないよ

きっと、カズはそう答えると思つてました。

ただ、私が出来ないと感じてたのです。

カズとの付き合いの中でお店を今まで  
通り出来ないと・・・

中途半端にならうです！

カズの仕事が、やう考えさせたのですが・・・

・・・私

辞めてもいい？

ん・・・俺に聞くなよ

アコが決める事やろ

ずっと、カズの時間でいたいの

貯金もあるし

ねえ・・・いいでしょ？

アコがいいなら、いいよ。

ちゃんと、お別れパ・ティ・するから

最後はホステスとして「さよなら」するから。

分かったよ。でも、貯金はそのままで

俺の貯金で！これ、絶対条件！！！

ええ・・・それは～

ムリなら、すべてムリ！なつ！アコ！

・・・

勢いに驚いた・・・

次の日、カズは帰りました。

私もお店に戻り最後の準備を始めます。

トモさんに話をし…

いっぱい「「めんなさい」

やつぱり、お姉さんです…

カズの事も相談に乗るよ。

「力強い言葉」

誰にも相談出来ないと思ってました。

でも、誰にも甘えない！

お店を辞めるまで1ヶ月

最高のホステスになつてやるー

カズとの約束…

ラストの日まで…

逢わない

淋しいけど  
・  
・  
・

頑張れる！

ラストの日は、すぐにやつて来ました。

今日で最後と思いつて複雑です。

結婚した訳でもないのに・・・

今夜はカズ来てくれるかなあ？

お花やいにしへ戻わぬした

お客様に感謝ですう！！

## 谷川さん登場

よう！ アユ最後だね。

はい。ありがとうございました。

頑張るなよ！

何をですか？

カズとの事だよ！

・・・・・

どひじて・・・

全てを知った訳でもないだろ

これからは、いろんな事が

アコを驚かすよ。

普通の世界じゃ・・・ないから。

いろんなカズ見ると思つから

頑張るなよ！

谷川さんの言葉は・・・

すゞく重かつたです・・・

結局カズはお店には来ませんでした。

電話だけで・・・

ホテルで待ってるから、ゆっくりしながら

皆とゆっくり最後を楽しみなさい

俺たちは、ずっと一緒にいられるやう

ありがとうございます。カズ・・・

その口は、朝まで騒ぎました。

早く帰りたいと思ってながらも楽しい時間です。

みんな、ありがとうございます。^v^

朝のホテル・・・

この姿は・・・

恥ずかしいです。

完全に「お水」

立たないよ!」

そおっ～と・・・

でも、目立つよ　^v^

「お帰りなさいませ」

変身してゐるの？・・・

スタッフさん・・・

やつぱり、すゞい・・・

部屋に帰ると力&#12316;テン閉まっていますw

カズは眠そうな顔です。

お帰り&#12316;お疲れ様

ただいま。。

寝てなかつたんだ

ごめんねカズ

いいよ。眠れなかつたw

だつて、寝顔見られるやんw

ええ&amp;#12316;ww

写メしてあげるよw ね。カズつ

はいはい。

シャワ - でもして来たら

うん。分かつた&amp;#12316;

アユ&amp;#12316;

なに?

覗いてもいいかww

・・・・・

どうぞ&amp;#12316;

一緒に、入つてもいいよアユはw

あつそ

・・・・・

ふ  
ふ  
勝つ  
た。  
。

## 第七章 最後の日

シャワ - すましてカズの側へ

アユ 卒業おめでとう

あはは わ ありがとう。

カズが私を抱きかかえた・・・

「お姫様抱つ！」

ベットル - ムへと・・・

今日からは、ひとつベットで眠るわ。

いいだらうアユ

・・・うん。

ふたりでひとつのベット・・・

やつぱり、ちよつびーい

カズの体にも、触れている・・・

もの凄く幸せな時間です。

なあなあアユ

・・・なに

俺、寝相悪いからねっ！

いびきとかもw

眠れなかつたら隣へ・・・

どお～ぞつ w

ああ～ 眠い・・・

アユ おやすみい

・・・・

幸せな時間・・・

だつたのに > <

「ひして私達は新たな一步を進みました。」

週末は、ずっと一緒にです！――

それ以外は、出来るだけ

今まで出来なかつた事

両親との時間を作りました。

「ひまでは、普通のお付き合い？」

これから始まるさまざまな事など

まったく、感じてしまふんでした。

幸せすぎる時間を過ごしていました。

まだ、一度も結ばれてないけど・・・

とても、幸せでした・・・

ガラスの翼—Love

つづく・・・

## 第七章 最後の日（後書き）

感想など頂ければ、続きを書いつと想っています。

宜しくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2352d/>

---

ガラスの翼

2011年1月15日16時20分発行